

(別添3)

【神川町】
校務DX計画

1人1台端末導入後、授業支援ソフトウェアや学習eポータル等を活用し、教育のデジタル化を進めてきた。

教員間においては、校務支援システムのグループウェアを活用し、伝達事項や各種資料及び教材をデジタル化して共有している。今後、校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定する。

1. 学校施設センターサーバーの活用

・教育資源の共有

令和5年度からセンターサーバーを導入し、教育資源の共有を行い、教育の質の向上を実施しています。

具体的には、教材や書式、参考事例などの教育資源を共有し、多様な学習機会の提供や個別最適化された学習を実現するため、資料・書類作成の省力化を進めています。

・データの一元管理

児童生徒情報などをセンターサーバーで一元管理することで、重複した入力作業が不要になります。

また、入力フォームの共通化を実施することで、入力項目の統一や入力ミスの削減につながるとともに、他のシステムとのデータ連携をスムーズに行うことで、手作業でのデータ移行や入力作業の軽減に努めます。

・ペーパーレス化

書類データをセンターサーバーで一元管理することで、紙の使用量を減らし、保管スペースの削減や書類探しの手間の軽減を実施します。

・情報共有の促進

各学校間でデータや情報を共有しやすくなることで、連携がスムーズになり、会議や打ち合わせの回数を減らすことができます。

2. 統合型校務支援システムの導入

令和4年度より校務支援システムを導入し、校務情報化を図り、各業務の情報連絡が進み事務の効率化が図られている。

3. 校務改善のためのクラウドサービス・ツールの活用

学校では、児童生徒に学習者用端末が導入され、Google Workspace の各種アプリや学習eポータルサイト、オンラインドリルを活用しながら授業を実施しております。

また、今年度から教職員と保護者間の連絡のデジタル化として学校徴収金のデジタル集金サービスを活用し、教職員の負担軽減を図る取組を推進しております。

4. F A X 及び押印の見直し

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、ほとんどの学校でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

F A X については緊急連絡やネットワークの不具合時など、電子メール等よりも効率的な場合を除き、校務系ネットワーク上でのやりとりの可否を検討し、見直しに向けて取り組んでまいります。

押印につきましては原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。